

受験番号:31IPCN017

問 1

【書類銘】 特許請求の範囲

【請求項 1】

空調の制御方法であって、

前記空調の加熱モードでの連続有効運転の回数が、予め設定した回数に達したかどうかを判断することと、

前記連続有効運転回数が予め設定した回数に到達した場合、前記空調が待機状態にあるとき、前記空調の外機に対して間欠的な電力供給を行うことと、

前記連続有効運転回数が予め設定した回数に達しなかった場合、前記空調が待機状態にあるとき、前記空調の外機に対して連続的な電力供給を行うことと、

機器全体を加熱モードに設定すると、圧縮機が始動して圧縮機が遮断されることが、一通りの有効運転として記録されること
を含むことを特徴とする空調制御方法。

【請求項 2】

前記空調の外機に対して間欠的な電力供給を行うことが、

前記空調の待機前の遮断時の室外環境温度、及び／又は前記空調の待機時に前記外機に対して電力供給を行っているときの室外環境温度を取得することと、

前記室外環境温度に基づいて、前記外機に対する電力供給の電力供給間隔時間を設定及び／又は調節することと、

前記電力供給間隔時間ごとに、前記外機に対して予め設定された電力供給持続時間で電力供給を行うこと

を含むことを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

(訳注)

・請求項 1 中の「整機」が空調を指すのかどうか、請求項の記述だけでは判断できませんが、原文通り訳出しました。

問 2

【背景技術】

二酸化チタンは、卓越した物理的及び化学的な安定した特性のゆえに、いかなる毒性作用もなく、安価で入手でき、良好な光触媒作用を有し、半導体触媒の領域において重要な地位を占めている。しかしながら、 TiO_2 光触媒体は、2つの主な欠点を有している。一つ目の欠点は、二酸化チタンの禁制帯幅が比較的広く (3.2 eV)、可視光線に対して反応しないことであり、禁制帯幅よりも大きいエネルギーの紫外光を吸収することによっ

でのみ、光生成正孔及び電子の生成を刺激し、汚染物質を酸化還元することができる。しかし、太陽光の中で紫外光が占める比が５％に達しないと、二酸化チタンの太陽光に対する利用率が極めて低くなる。二つ目の欠点は、二酸化チタンが、光子エネルギーを吸収して、光生成正孔及び電子の生成を刺激する再結合率が比較的高く、これにより二酸化チタンの光触媒活性が甚だしく制限されることである。したがって、比較的広い光吸収範囲及び高い触媒化率を有し、安定性が優れた触媒体を得ることが、現在解決しなければならない課題である。

問 3

【発明を実施するための形態】

ユーザー装置は、サービス装置にオーダー情報を送信する（S101）。オーダー情報は、バインディングアカウント、データ転送量、及び受信側アイデンティティ識別子を含む。

本発明の実施例では、ユーザー装置は、第1の發送指令の受信に応じて、サービス装置に前記オーダー情報を発信することが可能である。

サービス装置は、バインディングアカウント中のデータ量が、データ転送量を超えていないことを検出したとき、ユーザー装置に第1のプロンプト情報を送信する（S102）。第1のプロンプト情報は、転送側アカウントの報告を促すために用いられる。

本発明の実施例では、第1のプロンプト情報は、バインディングアカウント中のデータ量の不足を説明する情報、及び転送側アカウントを追加するための転送側アカウント追加ウィンドウを含み得る。

ユーザー設備は、NFC方式を用いて、スマートカードに対応する転送側アカウントを読み取る（S103）。

ユーザー設備は、サービス装置に転送側アカウントを送信する（S104）。

サービス装置は、受信側アカウントと整合する受信側アイデンティティ識別子を照会する（S105）。